

# SMBCグループ 個人投資家向け説明会

2026年2月17日

証券コード	8316
単元株数	100株
株価*	5,856円

\* 2026年2月16日現在

# 本日のアジェンダ

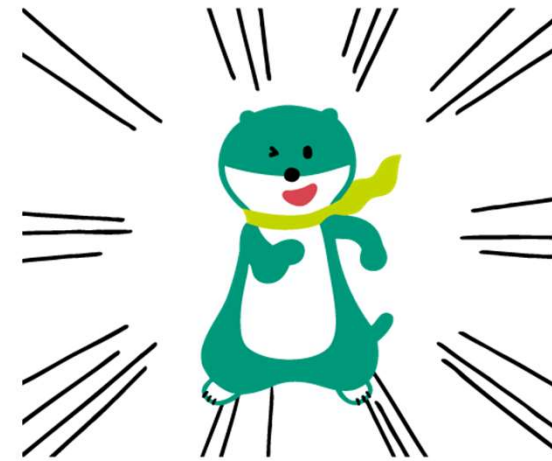
I	現在のSMBCグループ	2
II	SMBCグループの総合力	6
III	SMBCグループの成長性	8
IV	SMBCグループの株主還元	20

	ご案内	24
	ご参考資料	26



# I.現在のSMBCグループ

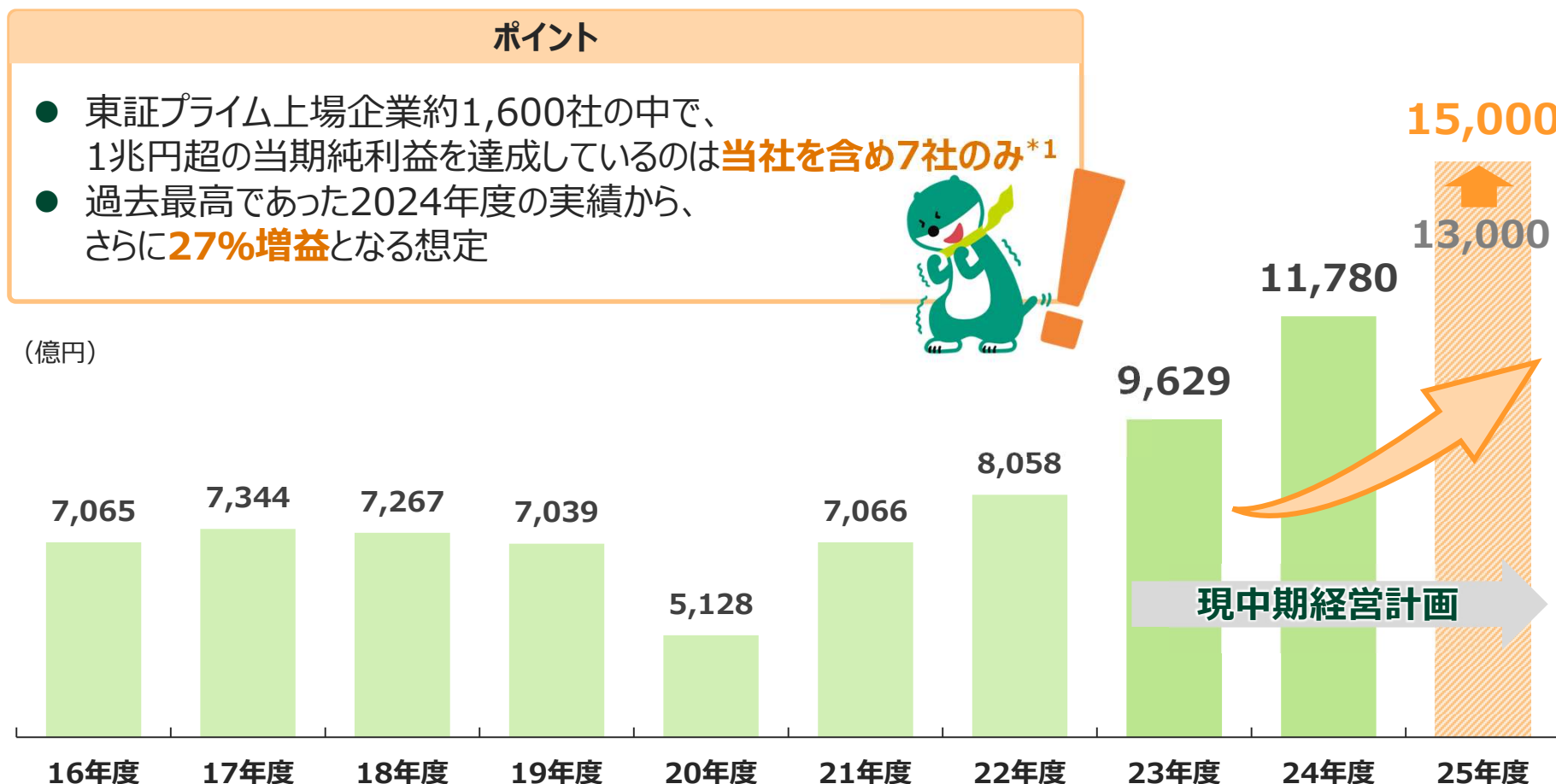
---



# 過去最高の純利益

2025年度の当期純利益は、期初見通しの1兆3,000億円から1兆5,000億円に上方修正  
達成すれば、現中期経営計画期間のすべての年度で過去最高値を更新

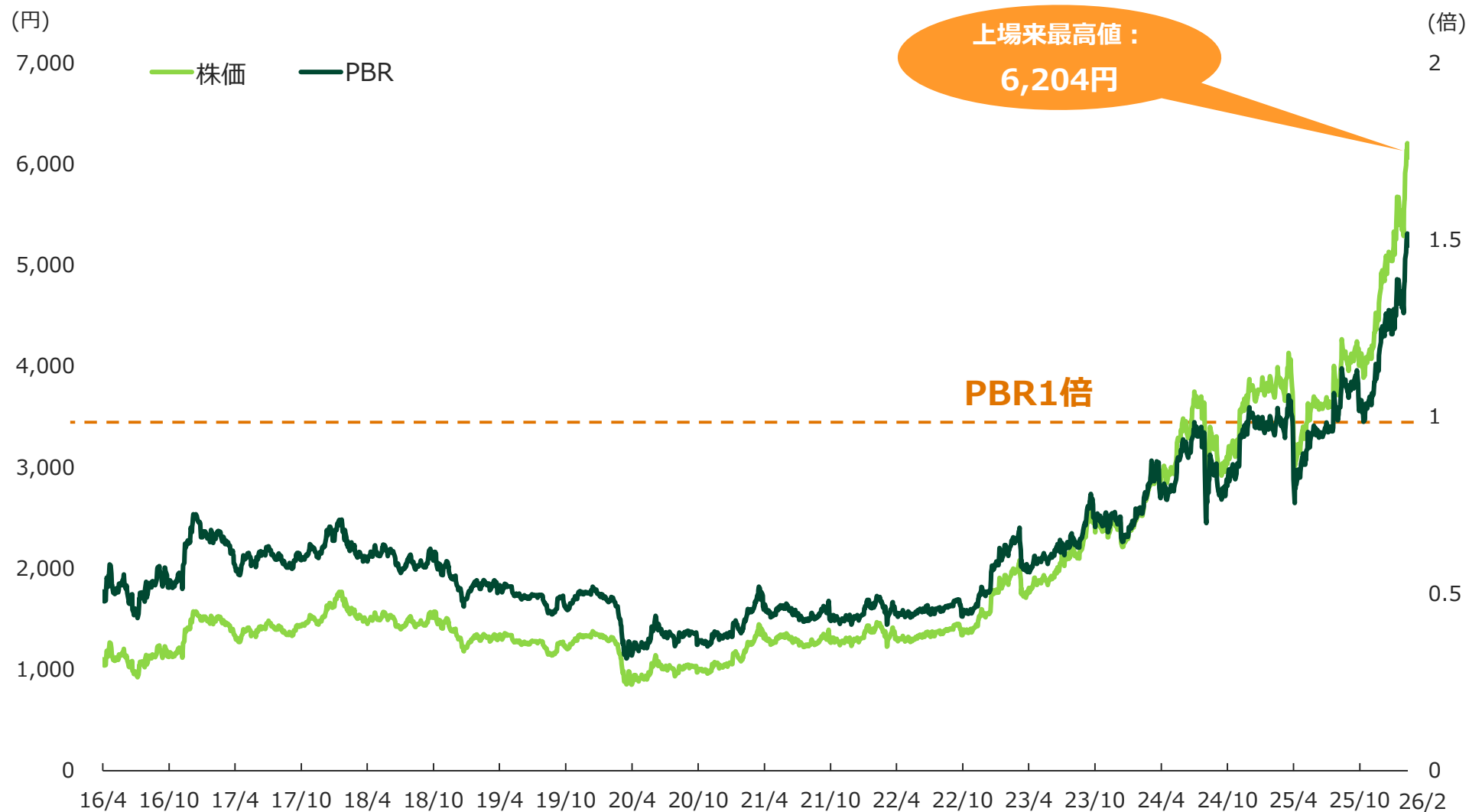
## 10年間の当期純利益推移



\*1 出典：Bloomberg

# 過去最高水準の株価

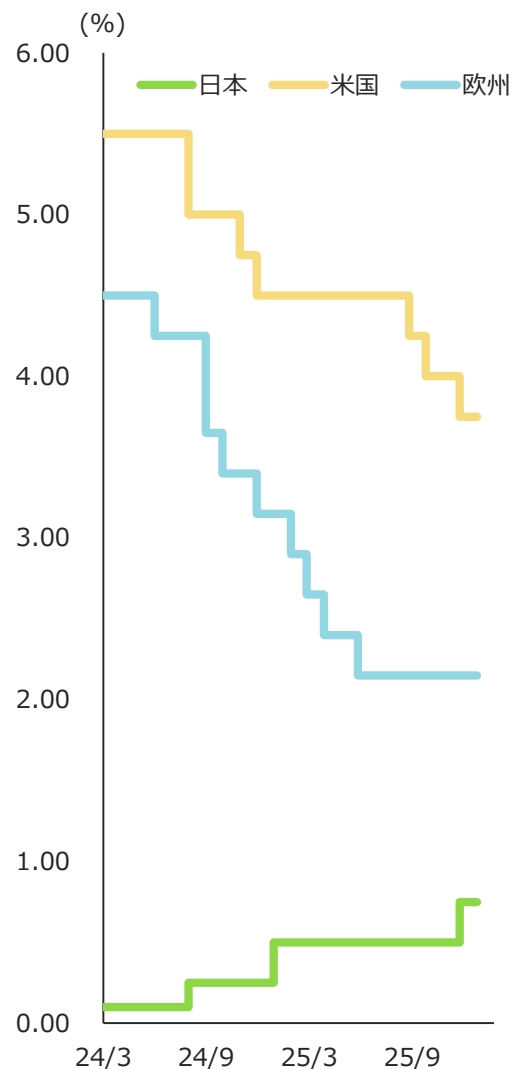
## 10年間の株価・PBR推移\*1



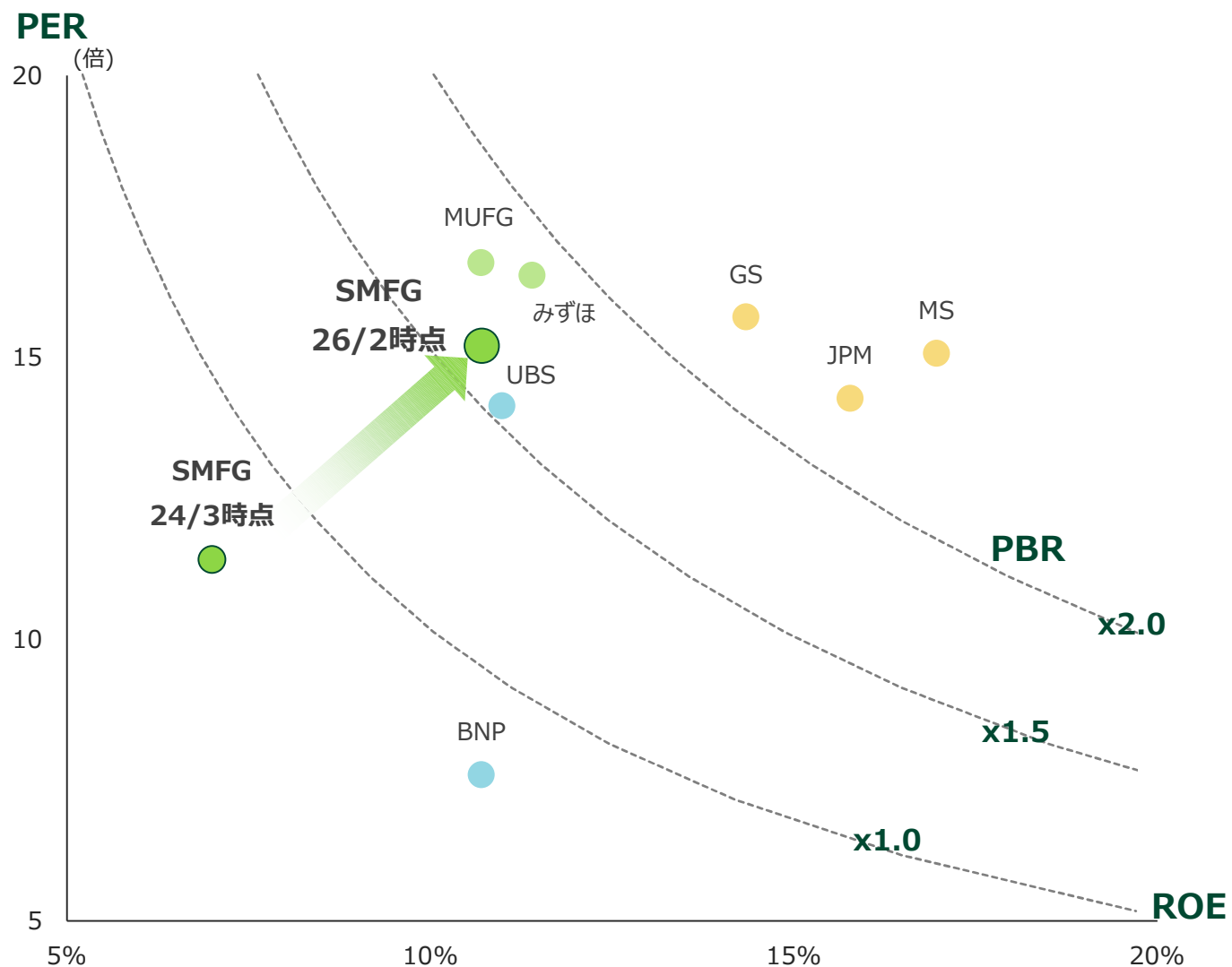
\*1 出典: Bloomberg  
終値の推移。2024年10月1日付けで実施した株式分割を踏まえ、それ以前の株価については遡って調整

# (参考) 各国の政策金利と主要金融機関のPBR

## 政策金利\*1



## 主要金融機関PBR\*2

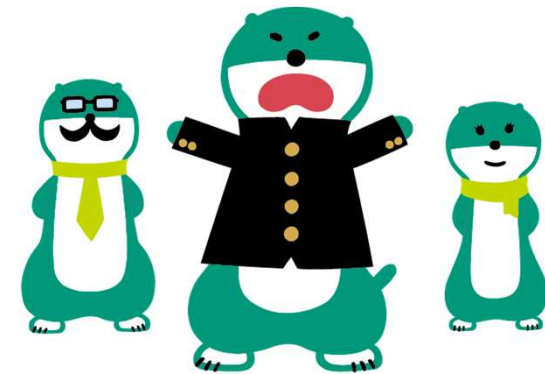


\*1 公表資料をもとに当社で作成。各政策金利はそれぞれ次の数値を使用。日本:無担保コールレート(オーバーナイト物)  
 米国:FFレート誘導目標値上限 欧州:欧州中央銀行主要リファイナンス・オペ金利

\*2 出典: Bloomberg

## Ⅱ. SMBCグループの総合力

---



# グループ総合力強化の歴史

国内の各業界を代表する主要子会社とともに業務のウイングを拡大し、アジアの金融機関を中心に投資・提携を行うことで地域のウイングを拡大

## 業務のウイング

三井住友銀行  
三井住友カード  
三井住友ファイナンス&リース  
日本総合研究所

発足



SMBC  
コンシューマーファイナンス

プロミス

SMBC信託銀行

外貨で貯めて、  
外貨で支払う。



GLOBAL PASS®

SMBC日興証券



三井住友DS  
アセットマネジメント



## 連結粗利益の内訳

	03/3	25/12
三井住友銀行 以外のグループ会社	18% →	25%
国内貸出金・預金関連 (三井住友銀行単体)	35% →	17%
海外ビジネス (銀行業)	5% →	35%

Bank SMBC  
Indonesia (インドネシア)



SMBC Aviation Capital  
(アイルランド)



地域のウイング

SMFG India Credit Company (インド)

FE Credit (ベトナム)  
RCBC (フィリピン)



YES Bank (インド)

Jefferies (米国)

## Ⅲ. SMBCグループの成長性

---



# 当社を取り巻く環境



金利のある世界へ ※詳細は次ページ



コーポレートガバナンスの進展



グローバル化の反転・分断



テクノロジーの進化



従業員の価値観の多様化



社会課題の深刻化

預貸金の獲得 P.11・13

資産運用の進化 P.12

活発なコーポレートアクションの捕捉 P.13・14

長期的な目線での成長取り込み P.14・15

テクノロジー・生成AIの活用 P.16

多様な従業員が活躍する環境整備 P.17

社会的価値の創造を牽引 P.18

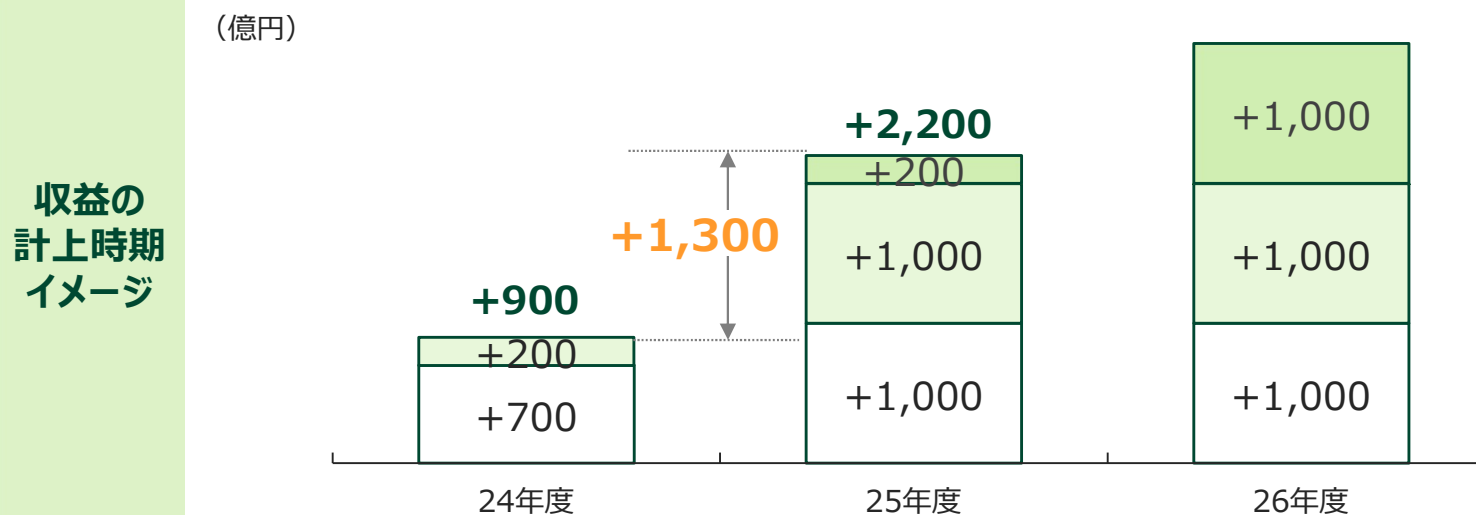
激しい変化に迅速に適応し、  
社会インフラとしての役割を果たしながら、社会とともに成長

# 当社を取り巻く環境：円金利上昇による資金利益への影響\*1

	24年3月	24年7月	25年1月	25年12月	今後
政策金利	0-0.1%	0.25%	0.50%	0.75%	さらに +0.25% あたり
資金利益 影響 (億円)	+1,000		+1,000	+1,000	+1,000 <sup>*2</sup>

## 試算の前提

市場連動貸金	+25bps
短期プライムレート 連動貸金	+25bps
固定貸金	+25bps
国債	+25bps
日銀当預付利	+25bps
普通預金	+10bps
定期預金	+15bps

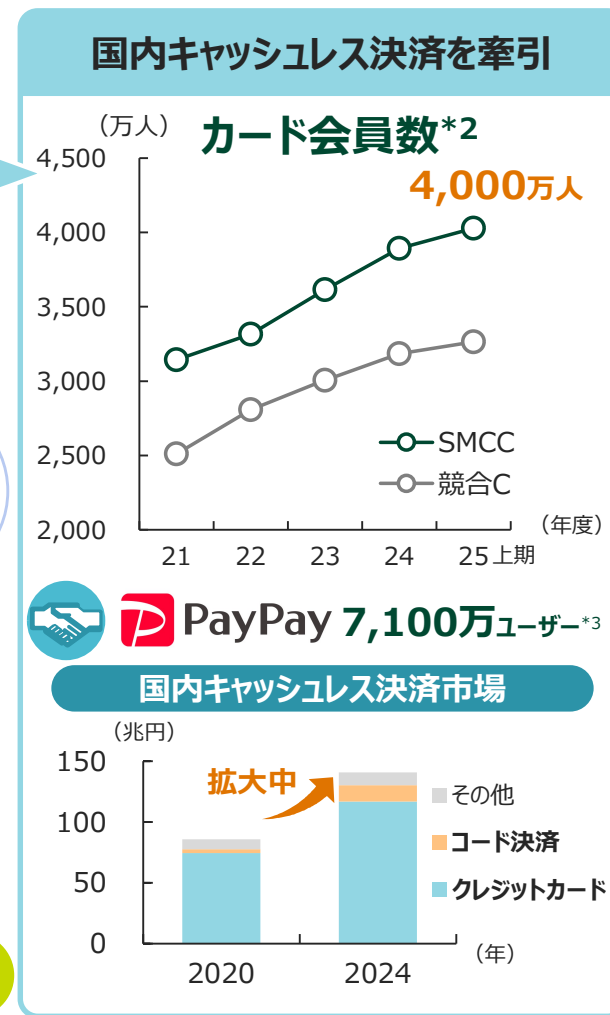
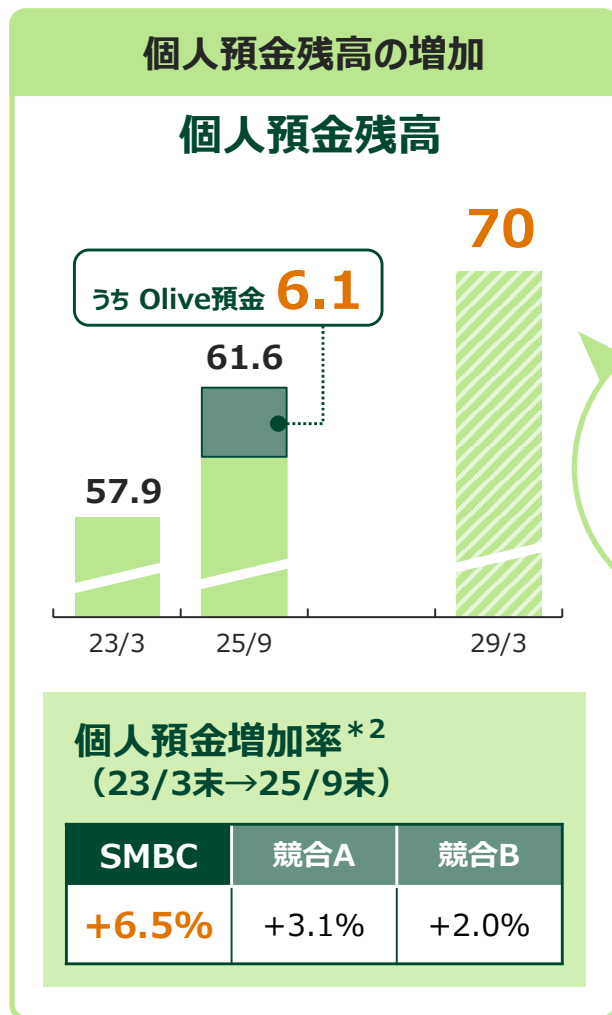


\*1 バランスシートは不変の前提 \*2 長期・短期金利ともに+25bpsずつ上昇の想定

# Oliveを軸にしたリテールビジネス

預貸金の獲得

さまざまな金融・非金融サービスを途切れなくつなぐ「Olive」で、利便性の高い顧客体験を創造  
外部パートナーとも連携しながら、今後も顧客基盤・取引を拡大



\*1 26/1時点 \*2 各社開示資料を基に作成 \*3 25年9月末時点。PayPay社2025年10月15日付お知らせより抜粋

# 対面・デジタルを融合した資産運用ビジネス

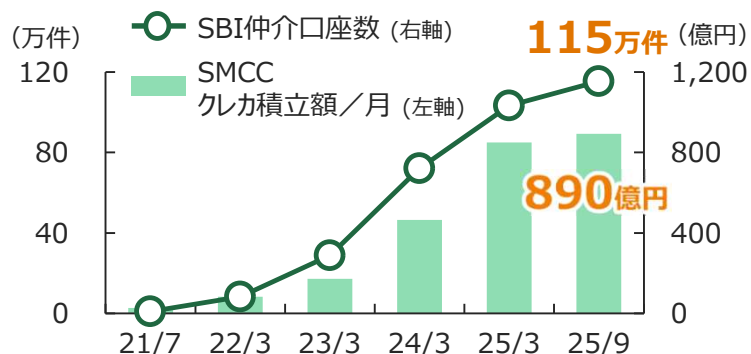
資産運用の進化

対面とデジタルを融合した新サービスをSBIグループと提供

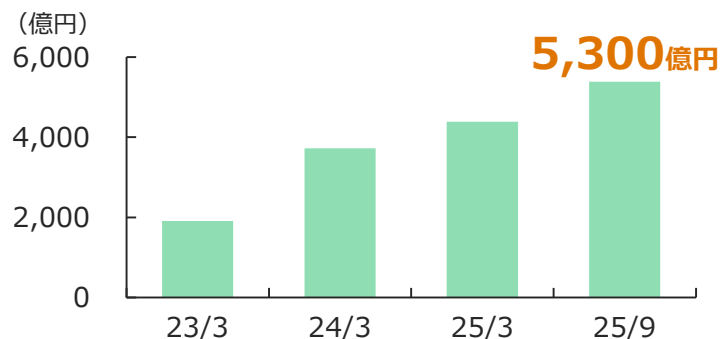
Oliveの資産運用サービスをレベルアップし、対象を富裕層にも拡大することで、圧倒的な差別化を目指す

## マス層

### SBIでのクレジットカード積立



### Olive顧客の投信残高



## デジタル富裕層

## Oliveコンサルティング



### 資産運用

それぞれのお客さまに合わせて、  
対面/デジタルを柔軟に組み合わせ



AIチャット



オンライン  
コンサルティング



対面相談

Oliveアプリ上での  
資産運用サービスもレベルアップ

### 5年目に目指す姿

運用資産残高  
**10兆円**

預金残高  
**10兆円**

### 決済

Visaの最上位ランク  
"Olive Infinite"を提供



\*1

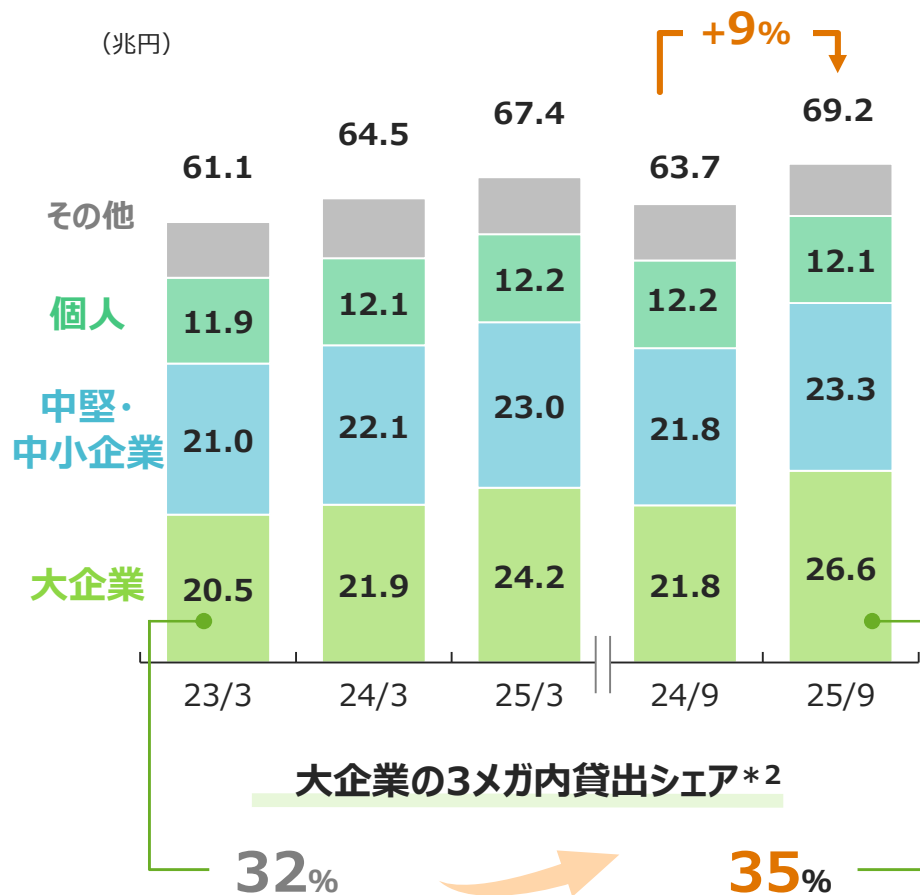
\*1 Olive Infiniteの券面デザインは未定

# 国内ホールセールビジネスの強化

お客さまのコーポレートアクションをはじめとした資金需要を捕捉し、特に大企業でシェアが大きく伸長  
 中小企業のお客さまに向けたデジタル総合金融サービス「Trunk」を接点に、預金も獲得

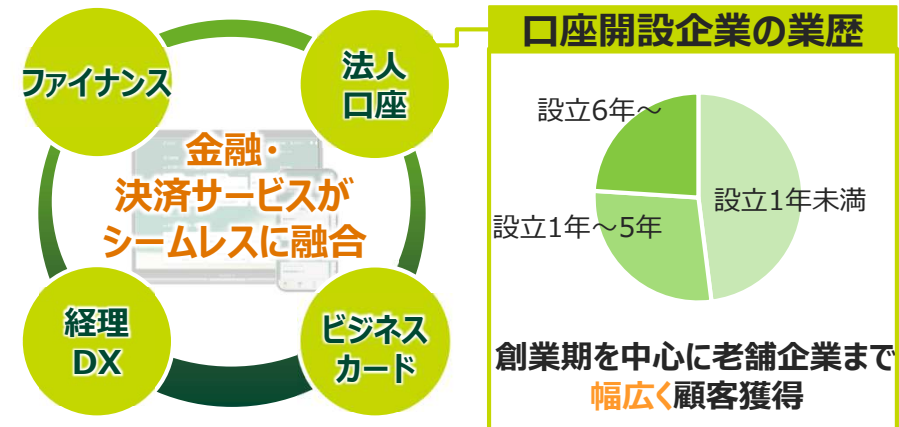
Good For Your Company's Days.

## 国内向け貸出金残高 (SMBC単体) \*1



## 法人向けデジタル総合金融サービス **Trunk**

目標：3年で30万口座 / 預金3兆円



リリースから約7か月で  
 口座開設数は**3万口座**  
 預金残高は**660億円**を突破

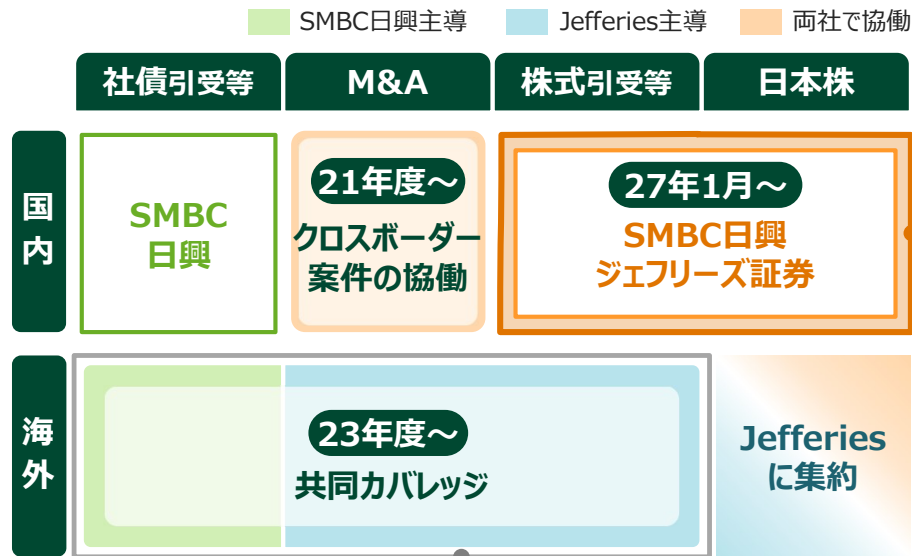
粘着性の高い預金を獲得し、収益力を強化

\*1 内部管理ベース

\*2 各社開示資料にもとづき、国内貸出未残から中小企業宛・政府向けを除いて算出

# 証券機能の強化による投資銀行ビジネスの拡大

米国証券会社であるJefferiesとの資本・業務提携を一段と深め、投資銀行ビジネスを拡大  
日本株事業は合併会社を設立し、大企業の大型・グローバルな案件への対応を強化



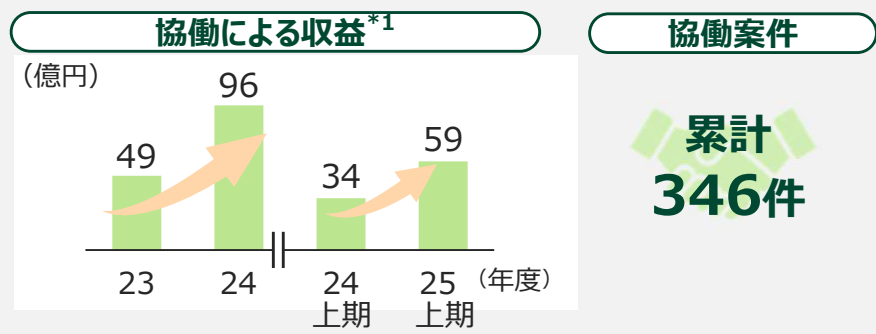
## 新たな協働領域：日本株事業の合併会社設立

<p><b>SMBC日興証券</b> 国内案件で一定の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本株ECM <b>2位</b>*2</li> <li>日本株セールス <b>3位</b>*3</li> <li>日本株リサーチ <b>1位</b>*4</li> </ul>	<p><b>Jefferies</b> 米国最大手の独立系投資銀行の1つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルECM <b>6位</b>*5</li> <li>グローバル株式セールス <b>7位</b>*6</li> <li>リサーチカバレッジ銘柄数 <b>1位</b>*7</li> </ul>
--	--

- 発行体** 国内大企業の大型・グローバル案件獲得
- 投資家** 事業法人・機関投資家への対応力強化

## 資本関係の強化

### これまでの協働領域：着実な実績



\*1 Jefferiesとの協働領域における収益のうち、SMBC帰属分 \*2 出典：Dealogic (23/4~25/3) \*3 出典：Extel (25/2調べ)  
\*4 日経ヴェリタス (2025年調べ) \*5 出典：Dealogic (中国・日本を除く、25/8/31時点)  
\*6 外部調査機関データをもとにJefferiesが作成 (25/6時点) \*7 出典：Starmine Stock coverage ranks (24/9~25/8)

# アジアのダイナミックな成長

長期的な目線での成長取り込み

インド・ベトナム・フィリピン・インドネシアの4カ国でフルバンキングを提供するマルチフランチャイズ戦略を展開  
YES BANKへの出資を通じて、特に高い成長ポテンシャルを持つインドでの戦略を加速

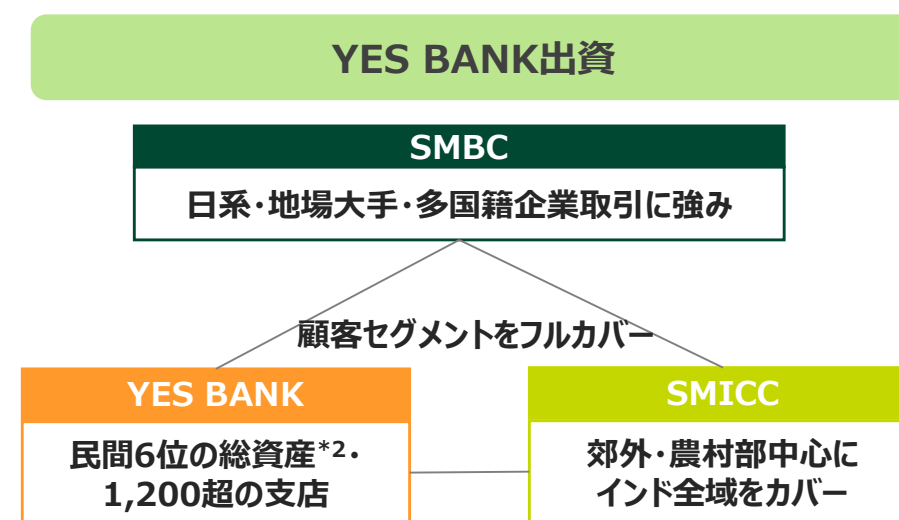
## マルチフランチャイズ戦略の全体像



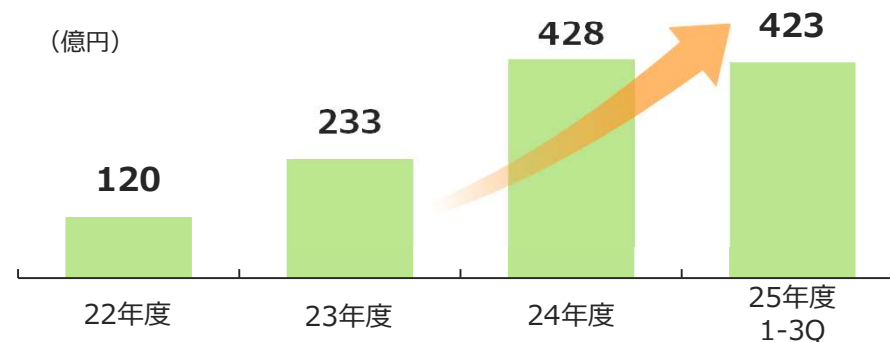
高い成長ポテンシャル

実質GDP 成長率予測*1 (2030年)	インド	ベトナム	フィリピン	インドネシア	(参考) 日本
	6.5%	5.3%	6.3%	5.1%	0.5%

## インドにおける成長戦略



(参考) YES BANKの業績



\*1 出典：IMF Database

\*2 2025/3末時点。為替レートはINR/JPY=1.80を適用

# 将来の成長に向けたIT投資

テクノロジー・生成AIの活用

OliveやTrunkといった成長施策推進や、経営基盤の強化に必要なIT投資を実施  
生成AIは全社横断的に活用を推進し、AI先進企業としてのブランドを確立

## IT投資額



\*1 次期中計期間までの合計

# 人的資本経営の推進

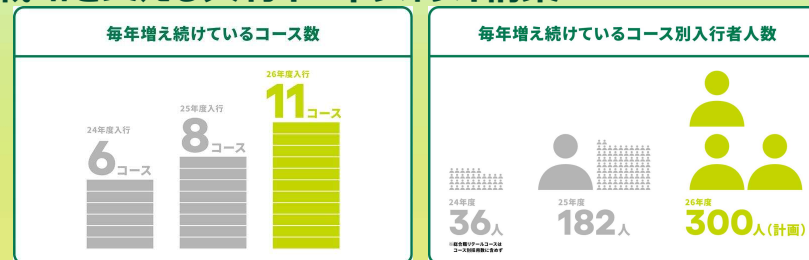
多様な従業員が活躍する環境整備

勤勉で意欲的な従業員が思う存分にその能力を発揮できる環境と組織風土を構築

会社と従業員が「選び、選ばれる関係」となり、一体となって社会的価値の創造と経済的価値の追求を実現

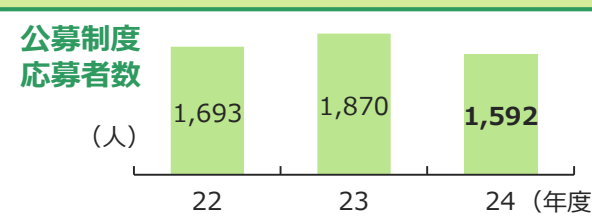


## 戦略を支える人材ポートフォリオ構築



## 従業員の成長とウェルビーイング支援

自律的な  
キャリア形成を  
支える仕組み作り



## チームのパフォーマンス最大化

従業員・経営が一体となって企業価値向上へコミット

従業員向け株式報酬制度<sup>\*1</sup>

抜本的な人事制度改定<sup>\*1</sup>

\*1 三井住友銀行での取組

全員参加による当社の自発的な取組の拡大を進めるとともに、  
取組の輪を外部に広げ、社会全体での社会的価値創造をリード

### SMBCグループ

シカカチDAY



よりよい社会のため、動こうよ、全員で。

のべ250拠点、  
18,000人が参加



### パートナー

#### 環境

- トランジションファイナンス推進



### 社会

#### 貧困・格差

- こどもの居場所・体験機会の提供



#### 日本の再成長

- 産学連携の加速



#### DE&I・人権

- 人的資本経営  
推進  
分析融資
- HR Navi



#### 少子高齢化

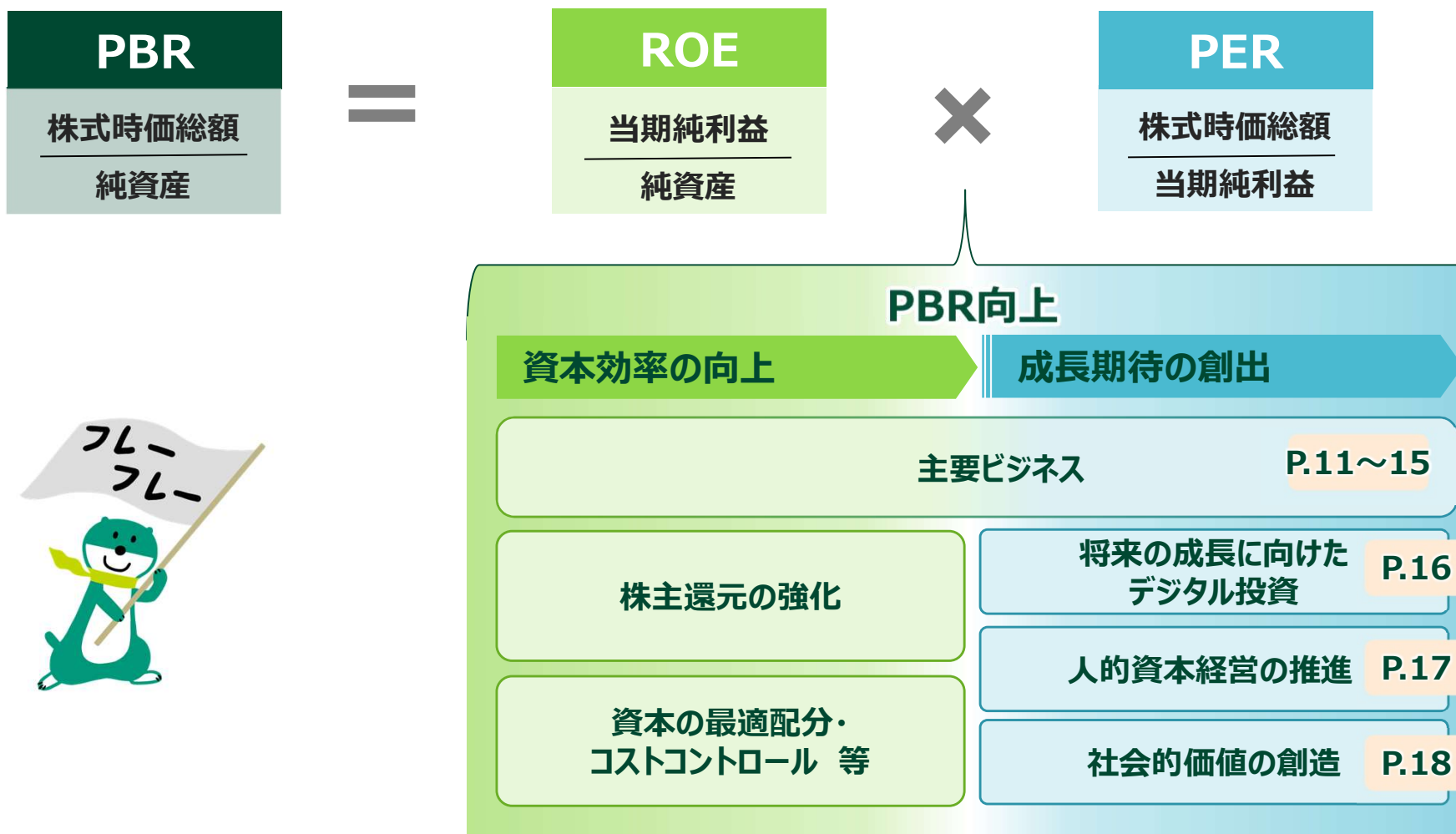
- ライフシフトサービスの  
提供

SMBC  
エルダープログラム



# 企業価値向上に向けて

環境に左右されないSMBCグループ自身の成長期待により、世界の主要金融機関に伍する企業価値を創出  
自己資本利益率（ROE）と株価収益率（PER）の両面の取組を実施



## IV. SMBCグループの株主還元

---



# 資本政策の基本方針

健全性確保、株主還元、成長投資をバランスよく実現

配当を基本に、  
機動的な自己株取得も実施

## 株主還元

### 配当

- 累進的配当・配当性向40%
- 親会社株主純利益の成長を通じて増配を実現

### 自己株取得

- 機動的に実施

ビジネスモデル改革と  
重点領域への資源投入

## 成長投資

### オーガニック

- 低採算アセットを削減しつつ、成長分野に投入

### インオーガニック

- 機会を捉えて資本を投入
- 過去投資案件のダイベストメント

## 健全性

CET1比率目標：10%程度

- 規制や環境の変化により必要な場合は資本を蓄積

質の伴った成長の実現

# 株主還元の推移

足元の10年間、コロナ禍による影響を受けた2020年度を除き、全ての年度で増配を実施  
前中計最終年度に比べ、今中計期間で配当は約2倍に成長



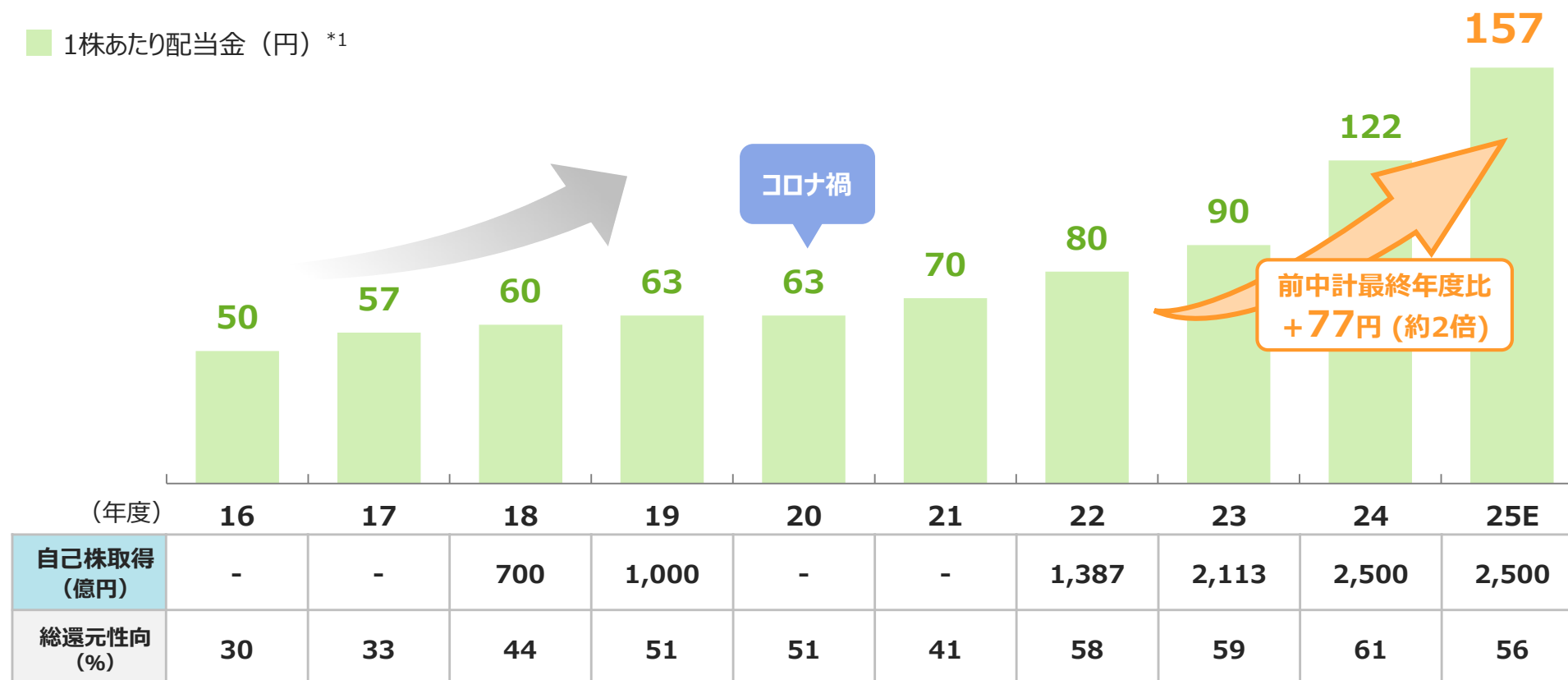
累進的配当



機動的な自己株取得



■ 1株あたり配当金 (円) \*1



\*1 2024年10月1日付で実施した株式分割 (3分割) を踏まえ、過去に遡り調整した金額 (小数点以下は四捨五入)

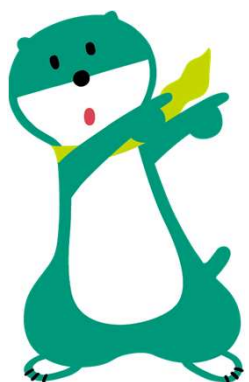
# まとめ

本日お伝えした3つの強みをもって、引き続き株主さまのご期待に応えていきます

1. **グループ総合力の結集**

2. **環境変化をチャンスに変える成長性**

3. **積極的な株主還元**



# ご案内

---

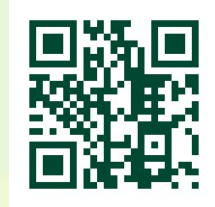


# 当社からのレポート

## SMBC GROUP REPORT 2025 (統合報告書)

<https://www.smfg.co.jp/gr2025/>

経営陣からのメッセージや、従業員へのインタビューをピックアップした特設サイトを公開  
本編には、社会的価値創造や、経営基盤の格段の強化に向けた継続的な取組も掲載



MESSAGE FROM GROUP CEO

### 混沌を突き抜け、 したたかに進む

三井住友フィナンシャルグループ  
取締役 執行役社長 グループCEO  
中島 達

従業員インタビュー

外部パートナーとの連携を通じて「Olive」の利便性を向上

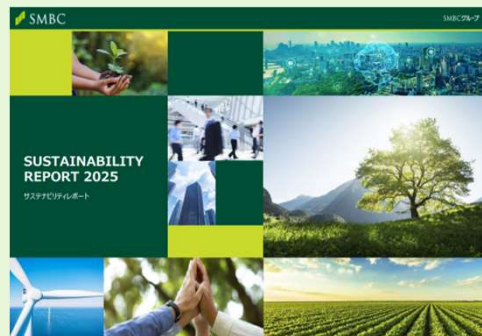
お客さまとともに発展し、日本の再成長に貢献

「3つの」を実践し、マーケットトレンドを捉えた収益拡大に貢献する

## サステナビリティレポート

<https://www.smfg.co.jp/sustainability/report/backnumber/>

気候変動、自然資本、人権、さらにSMBCグループの競争力の源泉である人的資本に関する取組を、一冊にまとめて開示



エグゼクティブサマリー

戦略: 社会課題の解決と持続可能な成長の実現

リスク管理: 社会課題の解決と持続可能な成長の実現

ガバナンス体制: 取締役会、監査役会、執行役員会

指標と目標: 環境、社会、ガバナンス

指標と目標

環境: CO2排出量削減 (Scope 1+2)

社会: 従業員満足度向上

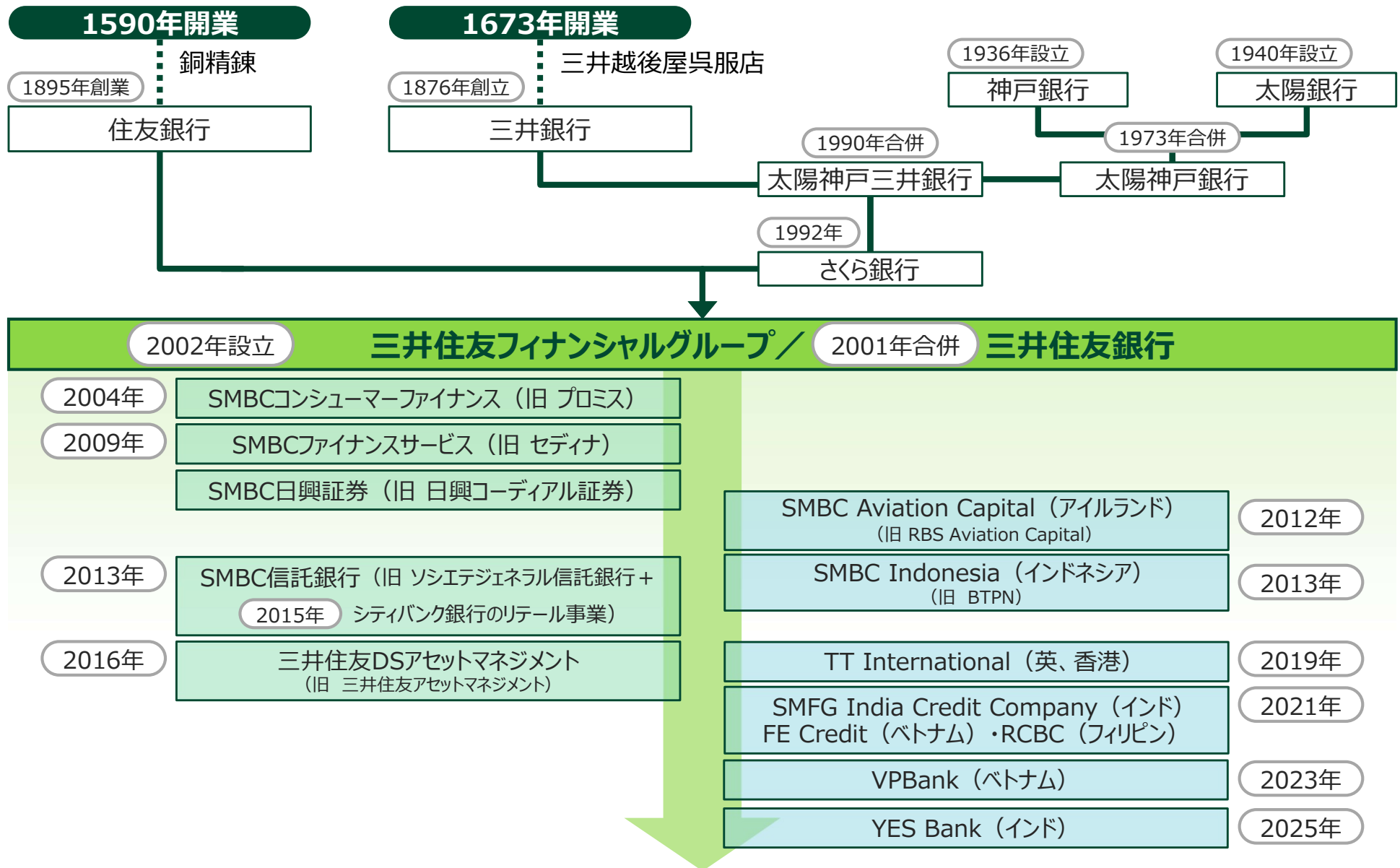
ガバナンス: 取締役会多様性向上

# ご参考資料

---



# SMBCグループの沿革



# 2024年度実績

いずれも  
過去最高

## 2024年度業績



連結粗利益 (一般企業の売上に相当)	4兆1,267 億円	総資産	306 兆円
連結業務純益 (一般企業の営業利益に相当)	1兆7,193 億円	貸出金残高	111 兆円
親会社株主純利益	1兆1,780 億円	預金残高	189 兆円

拠点

グループ全体  
(海外)

38

カ国・地域

146

拠点

従業員

グループ全体

12

万人

うち海外

6.6

万人

# 決算の概要 (25/12時点)

## 連結P/L

	(億円)	25年度 1-3Q	前年 同期比	25年度 目標
1 連結粗利益		35,930	+4,307	
2 営業経費 (経费率)		▲18,992 52.9%	▲1,263 △3.2%	
3 持分法投資損益		1,080	+375	
4 連結業務純益	進捗率 88%	18,018	+3,420	20,500
5 与信関係費用		▲2,168	▲588	▲3,000
6 株式等損益		3,525	▲787	
7 その他		▲385	+754	
8 経常利益		18,991	+2,800	21,100
9 特別損益		▲48	+18	
10 税コスト		▲5,019	▲318	
11 親会社株主純利益	93%	13,948	+2,588	15,000
12 東証基準ROE		12.2%	+2.1%	
13 株主資本ROE		16.2%	+2.4%	

## 主要グループ会社

(左：25年度1-3Q実績、右：前年同期比)

(億円)	SMBC	SMBC日興 <sup>*1</sup>	SMCC <sup>*2</sup>
業務粗利益	20,376 +2,975	4,339 +259	6,509 +399
経費	▲8,361 ▲533	▲3,451 ▲115	▲4,604 ▲517
業務純益	12,015 +2,442	888 +144	1,958 ▲28
当期純利益	12,503 +2,368	1,085 +335	764 +95 <sup>*3</sup>

	SMBC信託	SMDAM 50%	SMFL <sup>*4</sup> 50%
業務粗利益	585 +75	347 +33	2,954 +601
経費	▲342 ▲23	▲252 ▲8	▲1,295 ▲282
業務純益	243 +52	95 +25	1,723 +287
当期純利益	191 +52	33 +9	918 +149

連結粗利益・連結業務純益・  
親会社株主純利益  
いずれも3Qの過去最高益を更新

\*1 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsの利益を含む内部管理ベース \*2 SMBCCFの計数を含む

\*3 過払債務の抜本的引当(24年度上期：▲880億円)、SMBCFSとの合併にかかる抱合せ株式消滅差益(同：+466億円)を除く \*4 持分法適用、内部管理ベース

# バランスシート

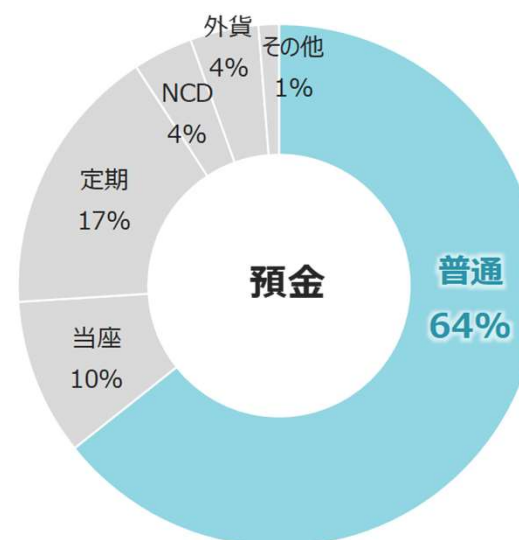
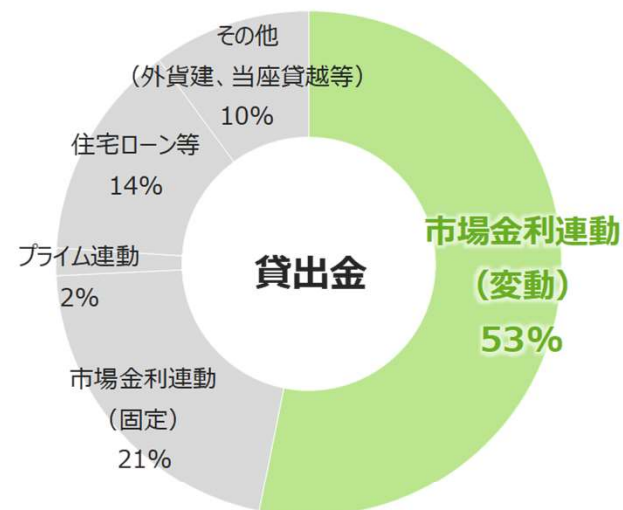
## 連結B/S (2025/12末)

( ) 内は25/3末比

<b>貸出金</b>  <b>117.3兆円 (+6.2兆円)</b>  国内貸出金 <sup>*1</sup> 70.4兆円	<b>預金</b>  <b>193.3兆円 (+4.6兆円)</b>  <b>預貸率 60.7%</b>  国内預金 <sup>*1</sup> 128.8兆円 譲渡性預金 (NCD) 16.4兆円
<b>有価証券</b>  <b>40.6兆円 (▲0.1兆円)</b>  国債 6.5兆円 外国債券 18.7兆円	<b>その他</b>  <b>107.7兆円 (+4.9兆円)</b>  純資産 <b>15.8兆円 (+0.9兆円)</b>
<b>その他</b>  <b>158.7兆円 (+4.4兆円)</b>  現預金 69.3兆円 日銀当座預金 <sup>*1</sup> 49.1兆円	

**総資産 316.7兆円 (+10.4兆円)**

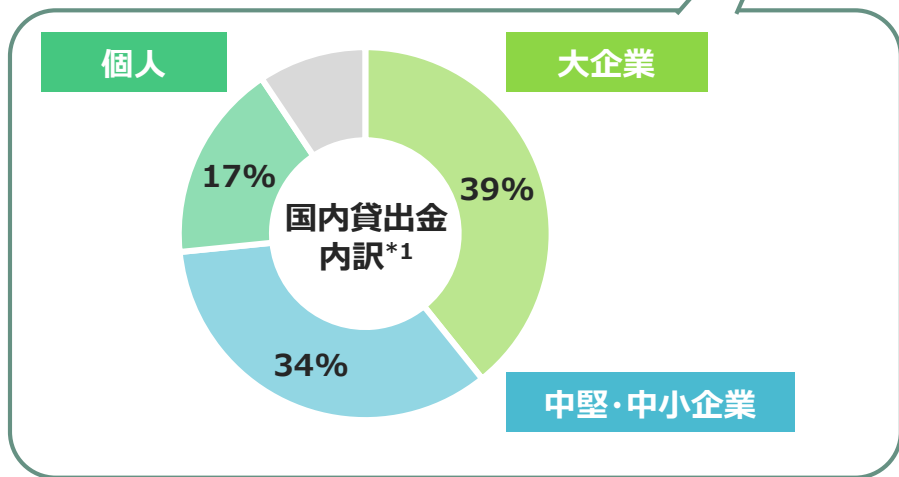
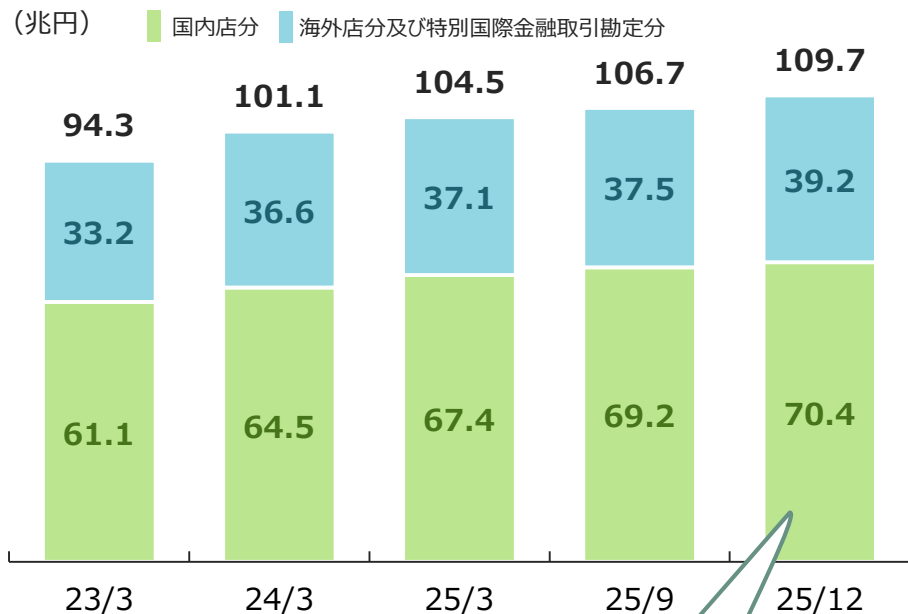
## 預貸金の構成比 (2025/12末) <sup>\*1, 2</sup>



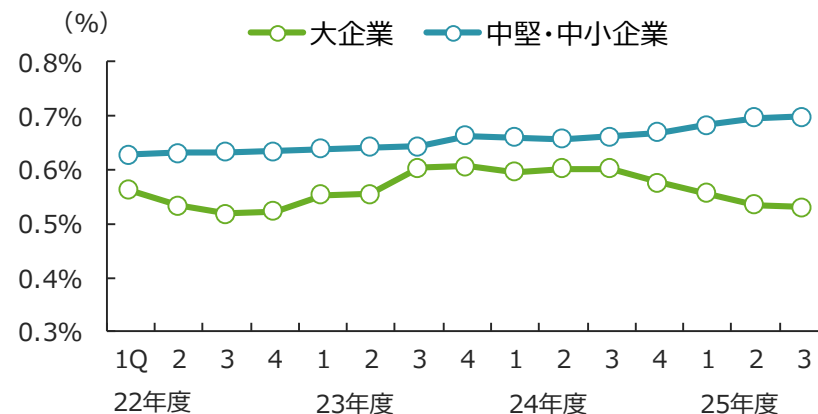
\*1 三井住友銀行単体 \*2 内部管理ベース

# 貸出金

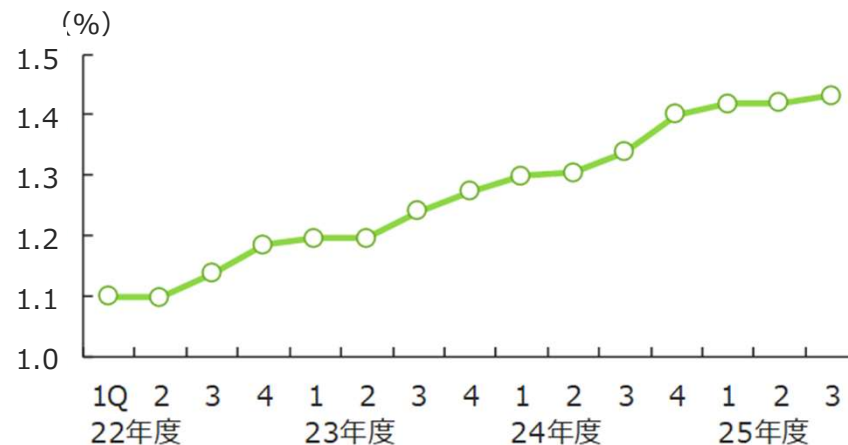
## 貸出金残高 (SMBC単体)



## 国内法人向け貸出金スプレッド (SMBC単体) \*1,2



## 海外貸出金スプレッド\*1,3



\*1 内部管理ベース \*2 ストックベース、政府向け等を除く  
 \*3 ストックベース、24年度より集計方法の変更、遡求反映を実施

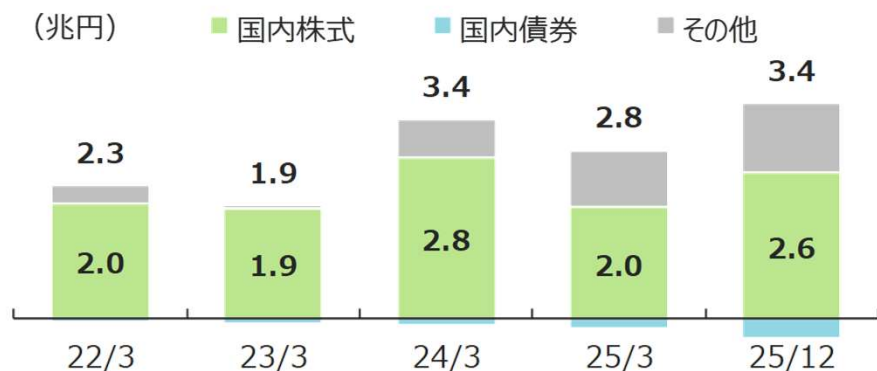
# 有価証券

## ■ その他有価証券の内訳（連結）

(億円)	残高		評価損益	
	25/12末	25/3末比	25/12末	25/3末比
満期保有目的	35,234	+32,490	▲1,023	▲961
その他有価証券	364,082	▲33,686	35,438	+7,378
国内株式	36,111	+5,659	25,591	+5,982
国内債券	89,480	▲49,455	▲2,249	▲801
うち国債	65,385	▲46,420	▲980	▲456
その他	238,492	+10,111	12,096 <sup>*1</sup>	+2,197
うち外債	186,546	+12,299	▲3,228	+1,263

ヘッジ取引も活用し、リスク量はコントロール

## ■ 評価損益の推移

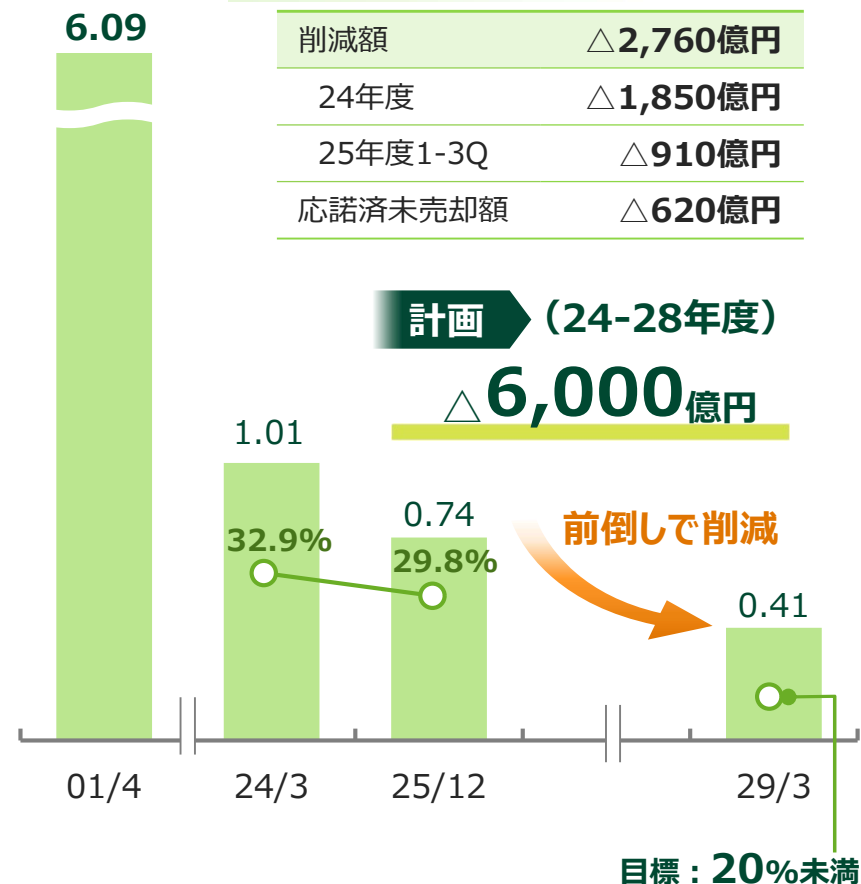


## ■ 政策保有株式

(兆円) ■ 国内上場株式簿価<sup>\*2</sup>  
○ 政策保有株式時価残高<sup>\*3</sup> ÷ 連結純資産

### 削減状況

削減額	△2,760億円
24年度	△1,850億円
25年度1-3Q	△910億円
応諾済未売却額	△620億円

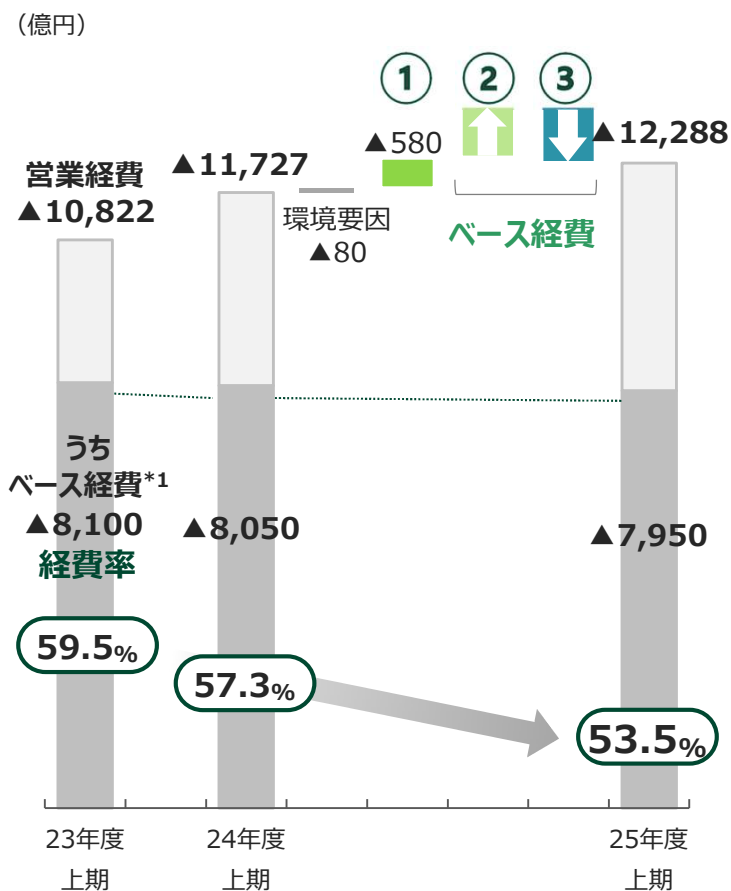


\*1 外国債券との差額は外国株式等

\*2 20/3末以降の業務提携目的の出資を除く \*3 有価証券報告書に記載される「みなし保有株式」の残高を含む

# コストコントロール

連結粗利益の拡大と経費削減施策の実行により、経費率の改善を継続  
 中計の目標達成に目途をつけ、引き続き戦略的な経費投入のためコントロールを継続



## ① 戦略的投入

Olive アカウント 650万件獲得	SMCC 買物手数料 +10.2%	Trunk口座 1.6万口座
------------------------	----------------------	-------------------

## ② ベース経費投入

- 海外重点領域への人材投入
- 戦略案件のIT投資前倒し

	25年度上期まで	中計目標
ベース経費	▲1,310億円	▲1,600億円
業務量	+6,470人分	+3,000人分
海外重点領域への人材投入	▲830億円	
戦略案件のIT投資前倒し	▲450億円	

## ③ ベース経費削減

- 国内ビジネスモデル改革
  - ストア化：現中計で124拠点
  - SMBCCFの無人店舗廃止：26年度中に全廃目途
- グループの機能集約
- 海外業務効率化
  - インドにオフショアリング拠点を設立し、業務集約を加速
- 既存施策の取組強化・追加施策

	通期では目標達成に目途	
	ベース経費	業務量
ベース経費	△1,160億円	△1,600億円
業務量	△6,790人分	△7,000人分
国内ビジネスモデル改革	△360億円	△600億円
グループの機能集約	△350億円	△450億円
海外業務効率化	△280億円	△250億円
既存施策の取組強化・追加施策	△170億円	△300億円


\*1 営業経費から収益連動経費、先行投資にかかる経費、マーケット環境に伴う変動等を除いたもの

# 外部からの評価


## 外部格付

	SMFG		SMBC	
	(長期)	(短期)	(長期)	(短期)
Moody's	A1	P-1	A1	P-1
S&P	A-	-	A	A-1
Fitch	A-	F1	A	F1
格付投資情報センター (R&I)	AA-	-	AA	a-1+
日本格付研究所 (JCR)	AA	-	AA	J-1+


## ESGインデックスへの組入れ



FTSE Blossom Japan




FTSE Blossom Japan Sector Relative Index



S&P/JPX Carbon Efficient Index

2024 CONSTITUENT MSCI JAPAN EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)

2024 CONSTITUENT MSCI NIHONKABU ESG SELECT LEADERS INDEX



FTSE4Good

2024 CONSTITUENT MSCI JAPAN ESG SELECT LEADERS INDEX

GPIF 選定インデックス

## 外部評価\*1



\*1 主要グループ各社において、厚労省による子育てサポート企業に係る認定「プラチナくるみん」(4社)、女性活躍推進に係る認定「えるぼし」(3段階: 2社、2段階: 5社)、スポーツ庁による従業員の健康増進を目的としたスポーツ活動に係る認定「スポーツエールカンパニー2024」(3社)を取得

# キャラクター紹介

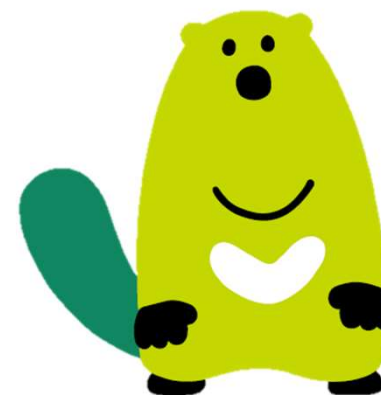
## ミドすけ



©dwarf

- 三井住友銀行キャラクター
- ひよんなことから人間の世界に住みついた、緑色のカワウソ
- 特技は、10円玉を立てること

## ビバすけ



- SMBCグループ共通のポイントであるVポイントを知ってもらいたくて、日々はりきっているビーバー
- 趣味は、Vポイントを集めること



本資料には、当社グループの財政状態および経営成績に関する当社グループおよびグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」、ならびに、環境、社会およびガバナンスにかかる当社グループのサステナビリティに関連する活動に関する記述（「サステナビリティに関する記述」）が含まれております。

多くの場合、これらの記述には、当社グループの将来に関する事項を表す「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績や結果を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績や結果は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」および「サステナビリティに関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績や結果に影響を与えうるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、保有する有価証券の時価の下落、不良債権残高および与信関係費用の増加、当社グループの国内外におけるビジネス戦略が奏功しないリスク、提携・出資・買収および買収後の経営統合が奏功しないリスク等です。こうしたリスクおよび不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」および「サステナビリティに関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」または「サステナビリティに関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。また、「サステナビリティに関する記述」における、当社グループのサステナビリティに関連する取組については、当社グループのリスク管理およびその他の投融资等の目的を推進しそれらに対応することを目指す、当社グループが独自に決定した方針と方法に基づき行われ、また個々の決定は各法域において適用される法規制に基づき、それに従って行われます。

当社グループの財政状態および経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものを参照ください。